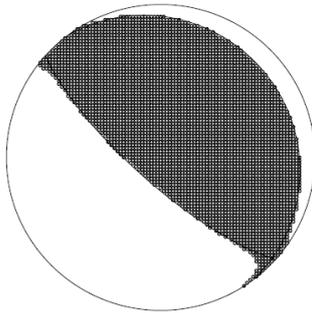


10月25日 インドネシア、スマトラ南部の地震 (W-phase を用いたメカニズム解析)

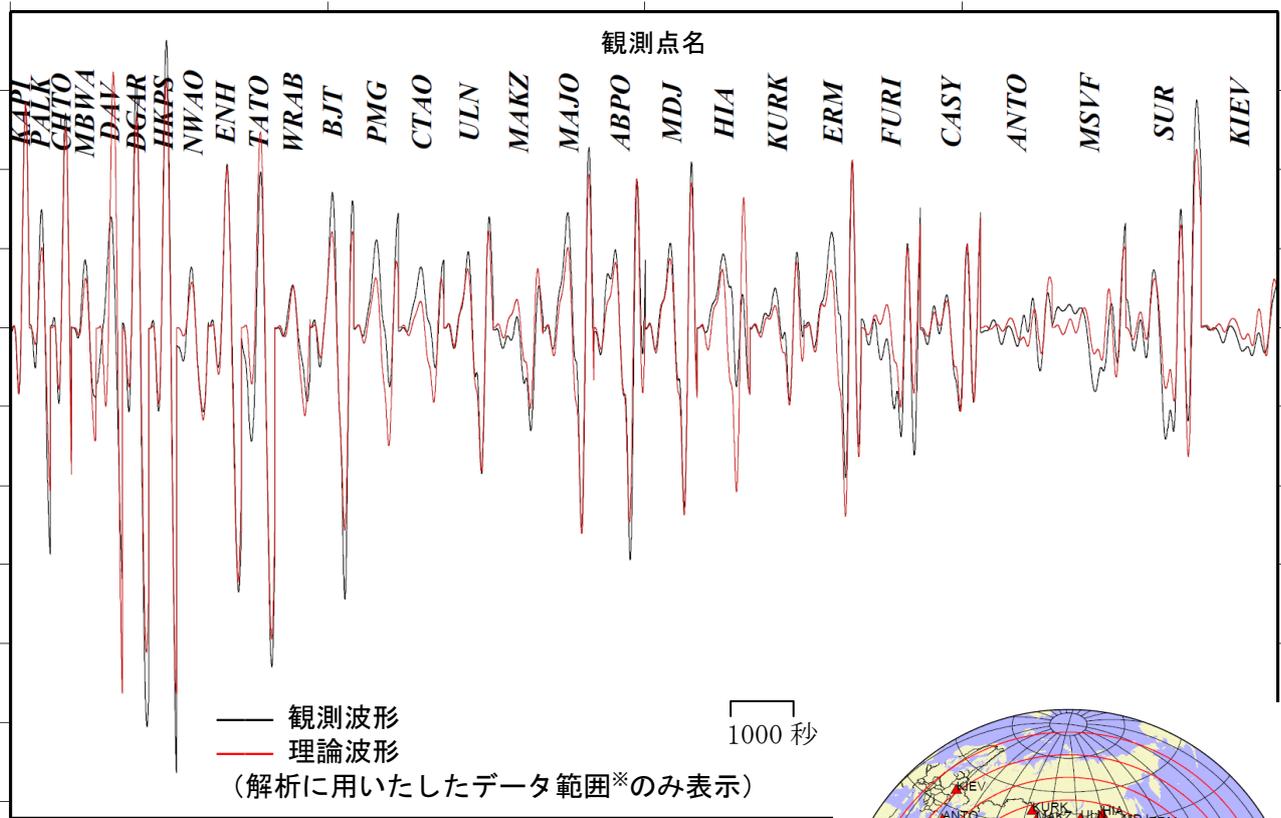
W-phase による解



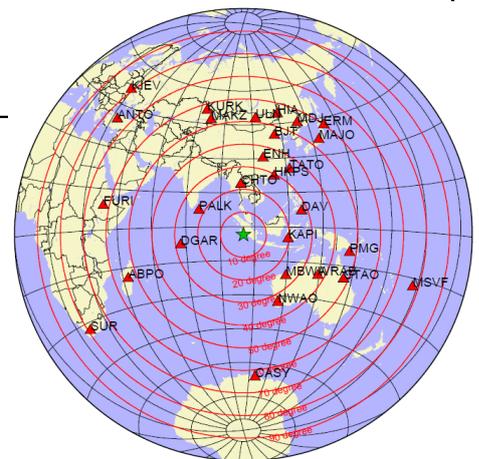
Mw7.6(7.62)

2010年10月25日23時42分(日本時間)にインドネシアのスマトラ南部で発生した地震について W-phase を用いたメカニズム解析を行った。メカニズム、Mwとも、Global CMTなどの他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mwは7.6であった。なお、最適位置はS4.2°, E99.0°となった(深さはUSGSによる20.6kmを使用した)。

W-phaseの解析では、震央距離10°~90°までの28観測点の上下動成分を用い、200~1000秒のフィルターを使用した。注)W-phaseとはP波からS波付近までの長周期の実体波を指す。



※解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。



解析に使用した観測点配置

(W-phaseに関する参考文献)
Kanamori, H and L. Rivera (2008): Geophys. J. Int., 175, 222-238.

IRIS-DMC より取得した広帯域地震波形記録を使用した。また、解析に使用したプログラムは金森博士に頂いたものを使用しました。記して感謝します。

気象庁地震予知情報課作成